

via anti-fibrotic effects in PA banded rat. Pediatric Academic Society Annual Meeting, Boston, Feb.

- 21) 伊藤伶司. ファロー四徴症に対するβ遮断薬と低血糖発作に関する検討. 第47回日本小児循環器学会総会・学術集会. 博多, 7月.

IV. 著 書

- 1) 井田博幸. 第七章：内分泌・代謝 マロトー・ラミー症候群. 井村裕夫（京都大学）総編集, 福井次矢（聖路加国際病院）, 辻 省次（東京大学）編. 症候群ハンドブック. 東京：中山書店, 2011. p.388-9.
- 2) 大橋十也, 有賀賢典. 第七章：内分泌・代謝 スライ症候群. 井村裕夫（京都大学）総編集, 福井次矢（聖路加国際病院）, 辻 省次（東京大学）編. 症候群ハンドブック. 東京：中山書店, 2011. p.390-1.
- 3) 黒澤健司. 基礎編 2. 遺伝医学的判断と情報提供 2) 確定診断とその進め方. 福嶋義光（信州大学）編. 遺伝カウンセリングハンドブック：遺伝子医学MOOK 別冊. 大阪：メディカルドウ, 2011. p.58-9.
- 4) 栗原まな. 小児の高次脳機能障害リハビリテーション実践ガイド：写真と症例でわかる. 東京：診断と治療社, 2011.
- 5) 加藤陽子. 総論 IV章：支持療法～緊急対応から晩期合併症対策まで～ 6. 小児がん疼痛管理：検査・処置時の鎮静・鎮痛, 疾病による痛みの除痛. 堀部敬三（名古屋医療センター）編. 小児がん診療ハンドブック：実地診療に役立つ診断・治療の理念と実践. 大阪：医薬ジャーナル社, 2011. p.297-304.

皮膚科学講座

教授：中川 秀己	アトピー性皮膚炎, 乾癬, 色素異常症
教授：上出 良一 (定員外)	光線過敏症, アトピー性皮膚炎, 皮膚悪性腫瘍
教授：本田まりこ (定員外)	皮膚ウイルス感染症（ヘルペスウイルス, ヒト乳頭腫ウイルス）, 性感染症
准教授：石地 尚興	皮膚リンパ腫, ヒト乳頭腫ウイルス感染症, 皮膚アレルギー学
准教授：太田 有史	神経線維腫症
准教授：佐伯 秀久	アトピー性皮膚炎, 乾癬
准教授：川瀬 正昭	ヒト乳頭腫ウイルス感染症
講師：伊藤 寿啓	乾癬, 光線療法
講師：梅澤 慶紀	乾癬
講師：松尾 光馬	ヘルペスウイルス感染症

教育・研究概要

I. 乾 癬

乾癬の治療はステロイド外用剤と活性型ビタミンD₃製剤を用いた外用療法は治療の基本となる。内服療法としてシクロスポリンMEPC, エトレチネートがあり, さらにスキンケア外来では全身照射型のNarrow-band UVB, 308nm excimer lampを設置し, 現在, 積極的に光線療法を行っている。また, 治療の選択肢は増えてきており, 2010年1月から生物学的製剤である完全ヒト型化およびキメラ型のTNF-α抗体のアダリムマブ, インフリキシマブが認可され, 難治性乾癬患者への使用が開始された。また, 2011年3月には新たな生物製剤である完全ヒト型化のIL-12/23 p40抗体のウステキヌマブが認可され, 難治性乾癬患者の治療の選択肢がさらに増えた。治療法の選択には疾患の重症度に加え, 患者のQOLの障害度, 治療満足度を考慮することが重要である。そのために我々が作成した乾癬特異的QOLの評価尺度であるPsoriasis Disability Indexの日本語版を応用し, 患者QOLの向上に役立てている。また, 乾癬患者に多いとされるメタボリック症候群に対しても精査を行い, 高血圧, 高脂血症の治療も合わせて行っている。また, 効果の高いと考えられる生物学的製剤である抗IL-17抗体や抗IL-23 p19抗体の臨床試験を実施している。

II. アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎については近年フィラグリン遺伝子の多型が明らかになって以来、バリア機能異常が注目を集めている。そこで、当科ではバリア機能異常に対する対応として保湿剤の外用法、バリアを破壊しない入浴法などを個別指導するスキンケアレッスンをやっている。また、バリア機能異常に起因する種々のアレルゲンの感作については、血液検査を中心にアレルゲンの同定を行っている。更にTh2に偏りがちなアレルギー炎症の状態を評価するためにTARCやIL-31などのケモカイン、サイトカインの測定を行い、病勢の把握につとめている。治療についてはEBMに則った外用・内服療法を中心とした標準的治療を行っている。重症患者にはシクロスポリンMEPC内服療法や、入院による光線療法などもやっている。精神的ストレスなどの心理社会的側面が強い場合は個別に対応し、漢方療法を希望する患者には、漢方療法に精通した医師が対応している。また、最近開発された内服、外用についても臨床試験を行っている。

III. 皮膚悪性腫瘍

当科では皮膚悪性腫瘍、軟部悪性腫瘍全般を扱っている。内訳は悪性黒色腫、有棘細胞癌、乳房外パジェット病、基底細胞癌、皮膚悪性リンパ腫、隆起性皮膚線維肉腫、悪性末梢神経鞘腫瘍など多彩にわたっており、国内でも屈指の症例数がある。治療方針は皮膚悪性腫瘍ガイドライン、皮膚悪性腫瘍取り扱い規約に基づき、患者や家族に詳細なインフォームドコンセントを用いた説明を行ったのちに治療計画を立てている。皮膚悪性腫瘍の中には生命予後にかかわる疾患も含まれているため、通常の皮膚疾患よりじっくり時間をかけて患者や家族が納得するまで十分に説明するよう心がけているおり、患者と家族の当科での治療満足度は非常に高いものと自負している。

色素性病変の良性・悪性の鑑別にはダーモスコピーが有用で、色素性病変症例では全例でダーモスコピー検査を実施している。また、悪性黒色腫を中心にRI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検も積極的に行っており、ほぼ100%の同定率である。これにより不必要な拡大手術を省けるだけでなく、正しいリンパ流の把握につながり、肘や膝窩などinterval nodeの発見や、微小転移の早期発見にもつながっている。皮膚悪性腫瘍はリンパ腫を除き手術治療が原則であるため、積極的に手術治療を行っている。進行期症例に対しては化学療法・放射

線療法などは患者と家族に十分な説明を行い、インフォームドコンセントを取得したうえで施行している。また病状進行や転移などの告知に伴う、がん患者の精神的なケアについても十分に配慮し、そしてがん性疼痛に対しても積極的に鎮痛薬（麻薬を含めて）を使用し、疼痛をほぼ感じることなく日常生活が過ごせるよう緩和ケアに努めている。

当科は皮膚悪性腫瘍学会、皮膚外科学会の悪性黒色腫グループメンバーになっており、学会へ当科で経験した全症例を登録している。

IV. 神経線維腫症

神経線維腫症外来は本邦で最も患者が多い外来であり、全国より患者が紹介されるため診断のみでなく長期の観察に加え、患者のQOL向上を目指して積極的に皮膚腫瘍の切除を外来、入院で行っている。レックリングハウゼン氏病に合併した悪性末梢神経鞘腫瘍(MPNST)はlifetime riskが10%に達すると言われ極めて予後不良であるが、そのepigeneticな異常に関する知見は限られている。MPNSTにおいて、がん精巢抗原遺伝子の脱メチル化、および、CpGアイランド低メチル化形質の存在を明らかにすることを目的とし、MPNST 7検体において、がん精巢抗原遺伝子9個(MAGEA1, MAGEA2, MAGEA3, MAGEA6, MAGEB2, MAGEC1, MAGEC2, CTAG1B, SSX4)の5'上流に存在するCpGアイランドのメチル化状態を解析した。その結果、脱メチル化が全くみられない症例がある一方で、すべての遺伝子で脱メチル化がみられる症例もあった。MPNSTにおいて、がん精巢抗原遺伝子が脱メチル化すること、および、CpGアイランド低メチル化形質が存在することが示唆された。今後、MPNSTにおけるCpGアイランド低メチル化形質が臨床病態に及ぼす影響について探究する必要がある。

V. ヘルペスウイルス感染症

1. 帯状疱疹・PHN・ヘルペス外来

単純ヘルペスに関しては、性器ヘルペスおよび難治性口唇ヘルペス、顔面ヘルペス患者などの治療を行っている。性器ヘルペスはバーチエット病、その他の潰瘍、水疱を形成する病変との鑑別を要し我々の外来では単純性ヘルペスウイルスI型およびII型、水痘-帯状疱疹ウイルス特異的抗原に対する蛍光抗体法で、その部位でのウイルスの存在を確認、迅速診断を行っている。難治性口唇ヘルペスの患者においても同様の方法を用いて、接触性皮膚炎、固定薬

疹などの鑑別を行っている。さらに、再発型性器ヘルペス患者や性器ヘルペス初感染の患者では同法や単純性ヘルペスⅠ型およびⅡ型糖タンパクGに対する抗体価をELISA法で測定することでウイルスの型判定を行い、その後の再発頻度などの説明に役立てている。この様に他の施設では施行が困難な迅速検査や臨床診断を行い、再発を繰り返す再発型性器ヘルペス患者にはバラシクロビルを用いた再発抑制療法を中心に行っている。他にも patient initiated therapy (患者が開始する治療) や、episodic therapy (発症時治療) など、患者のニーズにあわせた治療を行い、QOLを高めることを目標としている。

帯状疱疹に関しては、疼痛、皮疹を含めた初期や帯状疱疹後神経痛 (PHN) 患者を中心に治療を行っている。急性期、PHN患者を含めてステロイド、三環系抗うつ薬、オピオイド、プレガバリンを含めた抗痙攣薬、トラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠などを積極的に用い疼痛を図っている。さらに、疼痛の評価に関して従来用いられてきたVAS (visual analogue scale) のみでなく、知覚・痛覚定量分析装置 (Pain Vision PS-2100™) を用いて客観的な評価を行い、薬剤変更、投与の目安とすることを試みている。

VI. ヒト乳頭腫ウイルス感染症

尋常性疣贅では、一般的な液体窒素法、削り術に加え、難治例 (紹介が多い) で活性型ビタミンD₃軟膏密封療法、50%サリチル酸絆創膏貼付療法、グルタルアルデヒド塗布療法、5-FU軟膏塗布などを組み合わせ治療効果をあげている。さらに難治なものに対しては色素レーザーや photodynamic therapy を施行している。また、尖圭コンジローマを含め、ヒト乳頭腫ウイルス感染が疑われる症例ではPCR法で型判定を行っている。

VII. パッチテスト

各種の薬疹、接触皮膚炎、口腔粘膜の扁平苔癬などの原因薬剤、物質のパッチテストを積極的に施行している。

VIII. レーザー治療

Qスイッチルビーレーザーによる治療では、太田母斑、老人性色素斑の成績が良く、老人性色素斑ではほとんど1回の照射で改善した。扁平母斑に対しては、再発する例や色調が改善されない例が多く、治療成績は良くなかった。パルス色素レーザーによ

る治療では、単純性血管腫や莓状血管腫、毛細血管拡張症などに照射し、有効であった。また、疣贅外来と連携して、難治の尋常性疣贅に対して色素レーザーを照射し、効果がみられたものもあった。ウルトラパルス炭酸ガスレーザーは短時間に表在性隆起性病変を均一な深さで蒸散でき、脂漏性角化症、汗管腫、眼瞼黄色腫などに対し高い治療効果が得られた。

IX. スキンケア外来

外用、内服だけでは難治な乾癬、白斑、アトピー性皮膚炎、痒疹等に対して Narrow-band UVB, 308nm excimer lamp を併用して治療を行い、高い治療効果を得ている。近年マスメディアでスキンケアの必要性を特集した記事も多く見られるが、それに伴って誤ったスキンケアを行う事による新たな疾患の発生、既存の疾患の悪化を起こすことがある。あざ、湿疹、にきびといったスキントラブルのある方への化粧 (セラピーメイク) を有名化粧品メーカーの専門美容技術指導員が個人指導する「スキンケアレッスン」, 「セラピーメーカーキャップ」は、このような問題点を見出し改善することによって治療の助けになっているとともにスキンケアの普及にも貢献している。

「点検・評価」

乾癬外来では各治療法の Risk/Benefit Ratio を考慮し、患者のQOLを高める治療計画確立、治療アドヒアランスの向上を目指している。また、全身照射型の Narrow-band UVB, 308nm excimer lamp を積極的に稼働させている。乾癬患者を対象に学習懇談会を年2回開催したが、好評であり、今後も患者友の会と共同で継続して行う予定である。また、生物学的製剤の使用、臨床試験も積極的に取り組んでいる。また、乾癬の合併症として注目を浴びているメタボリック症候群の検索ならびに治療も積極的に行っている。

神経線維腫症に関しては当科における専門外来の存在が広く知られているためか、これまで以上に多くの患者が紹介受診し、遺伝相談も積極的に行っている。臨床・基礎研究ではびまん性神経線維腫から発症すると考えられる悪性末梢神経鞘腫瘍についての早期診断に加え、遺伝子異常の検索を続けている。また、患者QOL向上を目指して積極的に神経線維腫の手術にも取り組んでいる。

ヘルペスウイルスの基礎研究では高感度の迅速診断法の有用性を証明しえた。ヘルペスウイルス感染

症の早期診断, 型分類も行っている。また, 性器ヘルペスの抑制療法, 帯状疱疹後神経痛の治療に関しても積極的に取り組んでいる。

ヒト乳頭腫ウイルス感染症は難治紹介例も多く, 通常の治療法に加え, 特殊療法も重症度に応じて行っている。尖圭コンジローマの治療も積極的に行っている。

パッチテスト専門外来では食物によるアナフィラキシーの原因追及, 接触皮膚炎, 薬疹などの原因物質の同定を行っている。

アトピー性皮膚炎の臨床面ではEBMに基づく治療のみならず, 患者のQOLの障害の程度を考慮した日常診療を行っている。中でもスキンケアの重要性を患者に自覚してもらうため, スキンケア外来でのスキンケアレッスンの普及に努めている。心身医学的配慮が必要な患者にはメンタルケア外来を設けて対応している。本学独自の患者の会を中心に息の長い活動も行っている。

皮膚悪性腫瘍は, 手術症例も相変わらず多く, 悪性黒色腫, 乳房外パジェット病について国内でも屈指の経験例を有する。センチネルリンパ節生検も積極的に行っている。悪性黒色腫のフェロン維持療法の研究組織は当科が中心となって行っている。

レーザー治療外来では, 数種類のレーザー機器を用いて多数の症例を治療している。蓄積されたデータをもとに適切な時期に適切な機器で治療を行えるようになっている。

膠原病は長期経過の中で様々な合併症を生じる疾患群であるため, 今後も他科との連携を保ちつつ, 継続して治療を行うことが重要であると考えられる。

全体として, 様々な難治性皮膚疾患に関する広範な臨床研究に加え, 臨床に還元できる基礎的研究が進行していることが特徴である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) Fujita Y, Tsunemi Y, Kadono T, Saeki H, Mori E, Le Pavoux A, Watanabe T, Kikuchi K, Tamaki K. Lipidized fibrous histiocytoma on the left condyle of the tibia. *J Dermatol* 2011; 50(5): 634-6.
- 2) Kato T, Saeki H, Tsunemi Y, Shibata S, Sekiya T, Nakamura K, Kakinuma T, Kagami S, Fujita H, Tada Y, Sugaya M, Tamaki K. Cysteinyl leukotriene receptor 2 gene polymorphism -1220 A/C is not associated with atopic dermatitis or psoriasis vulgaris in Japanese patients. *J Dermatol* 2011; 38(5): 497-9.
- 3) Fujimoto S, Komine M, Karakawa M, Uratsuji H, Kagami S, Tada Y, Saeki H, Ohtsuki M, Tamaki K. Histamine differentially regulates the production of Th1 and Th2 chemokines by keratinocytes through histamine H1 receptor. *Cytokine* 2011; 54(2): 191-9.
- 4) Itoh M, Kiuru M, Cairo MS, Christiano AM. Generation of keratinocytes from normal and recessive dystrophic epidermolysis bullosa-induced pluripotent stem cells. *Proc Natl Acad Sci U S A* 2011; 108(21): 8797-802.
- 5) Kiuru M, Kurban M, Itoh M, Petukhova L, Shimomura Y, Wajid M, Christiano AM. Hereditary leukonychia, or porcelain nails, resulting from mutations in *PLCD1*. *Am J Hum Genet* 2011; 10(88): 839-44.
- 6) Karakawa M, Komine M, Takekoshi T, Sakurai N, Minatani Y, Tada Y, Saeki H, Tamaki K. Duration of remission period of narrowband ultraviolet B therapy on psoriasis vulgaris. *J Dermatol* 2011; 38(7): 655-60.
- 7) Miyagaki T, Asano Y, Shibata S, Ohno Y, Tsunemi Y, Saeki H, Tamaki K, Sato S. The development of Th1-mediated sarcoidosis improves the clinical course of Th2-mediated atopic dermatitis. *Mod Rheumatol* 2011; 21(4): 406-9.
- 8) Kato T, Saeki H, Tsunemi Y, Shibata S, Tamaki K, Sato S. TARC/CCL17 accelerates wound healing by enhancing fibroblast migration. *Exp Dermatol* 2011; 20(8): 669-74.
- 9) Hirota T, Saeki H, Tomita K, Tanaka S, Ebe K, Sakashita M, Yamada T, Fujieda S, Miyatake A, Doi S, Enomoto T, Hizawa N, Sakamoto T, Masuko H, Sasaki T, Ebihara T, Amagai M, Esaki H, Takeuchi S, Furue M, Noguchi E, Kamatani N, Nakamura Y, Kubo M, Tamari M. Variants of C-C motif chemokine 22 (CCL22) are associated with susceptibility to atopic dermatitis: case-control studies. *PLoS ONE* 2011; 6(11): e26987.
- 10) Chang W-C, Lee CH, Hirota T, Doi S, Miyatake A, Enomoto T, Tomita K, Sakashita M, Yamada T, Fujieda S, Ebe K, Saeki H, Takeuchi S, Furue M, Chen WC, Juo SH, Chiu YC, Hong CH, Yu HS, Chang WP, Nakamura Y, Tamari M. ORA11 genetic polymorphisms in the patients with atopic dermatitis in the Japanese and Taiwanese population. *PLoS ONE* 2012; 7(1): e29387.
- 11) Yamamoto M, Tada Y, Asahina A, Saeki H, Asano Y, Kimura T, Sugaya M, Kikuchi K, Tamaki K, Sato S. Severe generalized pustular psoriasis accompanied by bullae formation with increased serum vascular endothelial growth factor level. *J Dermatol* 2012;

- 39(2) : 183-5.
- 12) Torii H, Nakagawa H; Japanese Infliximab Study Investigators. Long-term study of Infliximab in Japanese patients with plaque psoriasis, psoriatic arthritis, pustular psoriasis and psoriatic erythroderma. *J Dermatol* 2011; 38(4) : 321-34.
- 13) Takahashi H, Nakamura K, Kaneko F, Nakagawa H, Iizuka H; JAPANESE SOCIETY FOR PSORIASIS RESEARCH. Analysis of psoriasis patients registered with the Japanese Society for Psoriasis Research from 2002-2008. *J Dermatol* 2011; 38(12) : 1125-9.
- 14) 伊藤寿啓. 【乾癬の実践的最新版】最新の紫外線療法. *Derma.* 2012; 187 : 27-31.
- 15) Torii H, Sato N, Yoshinari T, Nakagawa H; Japanese Infliximab Study Investigators. Dramatic impact of a Psoriasis Area and Severity Index 90 response on the quality of life in Japanese patients with psoriasis: An analysis of Japanese clinical trials of infliximab. *J Dermatol* 2012; 39(3) : 253-9.
- 16) Igarashi A, Kato T, Kato M, Song M, Nakagawa H; Japanese Ustekinumab Study Group. Efficacy and safety of ustekinumab in Japanese patients with moderate-to-severe plaque-type psoriasis: long-term results from a phase 2/3 clinical trial. *J Dermatol* 2012; 39(3) : 242-52.
- 17) 平部正樹, 長谷川友紀, 藤城有美子, 城川美佳, 福地 修, 中川秀己. 乾癬による皮膚がQOLに及ぼす影響 PDI日本語版を用いた男女別の検討. *日皮会誌* 2011; 121(5) : 875-82.
- 18) 伊藤寿啓. 【症例から学ぶターゲット型光線療法-エキシマライト療法】(Part1) 白斑 (case 01) エキシマランプVTRACにより治療した尋常性白斑の2例. *Visual Dermatol* 2011; 10(8) : 794-5.
- 19) 東福由佳里, 伊藤寿啓. 【症例から学ぶターゲット型光線療法-エキシマライト療法】(Part 4) その他の難治性疾患 (case 22) エキシマライト療法で治療した皮膚T細胞リンパ腫の2例. *Visual Dermatol* 2011; 10(8) : 849-51.
- 20) 白井暁子, 尾上智彦, 幸田公人, 伊東慶悟, 佐伯秀久, 中川秀己. 【特異な分布を示す皮膚病】臨床例無色素性の線維上皮腫型基底細胞癌. *皮膚診療* 2011; 33(8) : 845-8.
- 21) 泉 祐子, 本田まりこ. シヤント瘤の1例. *臨床皮膚科* 2011; 65(11) : 903-6.
- 22) 山本瑞穂, 多田弥生, 管 析, 玉城善史郎, 三井 浩, 帆足俊彦, 菅谷 誠, 佐伯秀久, 菊池かな子, 佐藤伸一, 栗原香子, 五十嵐敦之. インフリキシマブとエトレチナートの併用にてコントロールしえた汎発性膿疱性乾癬の1例. *皮膚臨床* 2011; 53(10) : 1415-9.
- 23) 本田まりこ. 世界における日本の皮膚科女性医師研究者の貢献 疣贅状表皮発育異常症と神経鞘腫. *日皮会誌* 2011; 121(13) : 2652-4.
- 24) 赤坂江美子, 馬淵智生, 矢作栄一郎, 比留間梓, 小島智子, 小澤 明, 伊藤寿啓, 中川秀己, 今福信一, 中山樹一郎. 尋常性乾癬爪病変に対するビタミンD3ローション外用療法の有用性の検証. *日皮会誌* 2012; 122(2) : 355-62.
- 25) 渡辺大輔, 浅野喜造, 伊東秀記, 川井康嗣, 川島 眞, 下村嘉一, 比嘉和夫, 本田まりこ, 松尾光馬, 村上信五, 村川和重, 安元慎一郎, ヘルペス感染症研究会. 帯状疱疹の診断・治療・予防のコンセンサス. *臨医薬* 2012; 28(3) : 161-73.

II. 総 説

- 1) 佐伯秀久. 成人アトピー性皮膚炎治療に対する内服療法の位置づけ. *日臨皮医誌* 2011; 28(2) : 144-5.
- 2) 佐伯秀久. アトピー性皮膚炎に対する reactive treatment と proactive treatment. *小児科* 2011; 52(4) : 463-9.
- 3) 佐伯秀久. 【アトピー性皮膚炎診療 2011】アトピー性皮膚炎診断治療ガイドラインの考え方. *日医師会誌* 2011; 140(5) : 963-6.
- 4) 佐伯秀久. 【アトピー性皮膚炎の病態と治療 Up to date】シクロスポリン内服療法の適応と注意点. *アレルギーの臨* 2011; 31(10) : 883-7.
- 5) 佐伯秀久. 【内科疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】皮膚疾患アトピー性皮膚炎. *Medicina* 2011; 48(11) : 602-3.
- 6) 佐伯秀久. 【局所ステロイド治療-最新の話-】副作用と対策. *アレルギーの臨* 2011; 31(13) : 1164-9.
- 7) 佐伯秀久. アトピー性皮膚炎 (ガイドライン, フィラグリン, TARC 含む) アトピー性皮膚炎のガイドライン概説. *日皮会誌* 2011; 121(13) : 2810-2.
- 8) 松尾光馬. 【性感染症 update-検査・診断・治療の最新知見-】性感染症の検査・診断・治療の実例-性器ヘルペス・尖圭コンジローマ・性器伝染性軟属腫. *Med Technol* 2012; 40(3) : 288-92.

III. 学会発表

- 1) Itoh M, Christiano AM. Development of induced Pluripotent Stem Cell (iPSC)-based therapy for Epidermolysis Bullosa (EB). 36th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology. Kyoto, Dec.
- 2) 伊藤寿啓. ウステキヌマブ (ステララ) の治療効果-治験そして臨床へ-. 第75回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 2月.

- 3) 本田まりこ. 性器ヘルペス診断と治療. 第12回神奈川県 STI学会. 横浜, 2月.
- 4) 石地尚興. 皮膚科における STI の現状. 第3回臨床現場の医師のための性感染症最新講座. 東京, 2月.
- 5) 尾上智彦, 佐々木一 (おゆみ野レインボー皮膚科), 伊東秀記, 松尾光馬, 中川秀己, 本田まりこ. 皮膚科領域検体を対象とする PURE/LAMP 法を用いた単純ヘルペスウイルス検出に関する検討. 第75回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 2月.
- 6) 松尾光馬, 松浦裕貴子, 尾上智彦, 伊東秀記, 本田まりこ, 中川秀己. 単純ヘルペスウイルス感染症に対する再発抑制療法の効果. 第75回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 東京, 2月.
- 7) 佐伯秀久. (イブニングセミナー) ガイドラインに沿った小児アトピー性皮膚炎治療～外用療法を中心に～. 第35回日本小児皮膚科学会学術大会. 横浜, 7月.
- 8) 佐伯秀久. (共催シンポジウム) バイオロジックスの対象 (導入) 患者と目指すべき治療ゴール. 第26回日本乾癬学会学術集会. 大阪, 9月.
- 9) 伊藤寿啓, 佐伯秀久, 福地 修, 忍田陽香, 中川秀己. 当科乾癬患者に対するインフリキシマブ治療-皮膚疹の全般改善度ならびに部位別改善度についての検討-. 第75回日本皮膚科学会東部支部学術大会. 前橋, 9月.
- 10) 伊藤寿啓, 高木奈緒, 福地 修, 佐伯秀久, 中川秀己. インフリキシマブ単独投与で治療に難渋したアロポー稽留肢端性皮膚炎汎発型の1例. 第62回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 四日市, 9月.
- 11) 佐伯秀久, 伊藤寿啓, 福地 修, 片山宏賢, 谷戸克己, 五十嵐敦之, 江藤隆史, 長谷川友紀, 中川秀己. 乾癬が就労に与える影響の調査. 第26回日本乾癬学会学術大会. 大阪, 9月.
- 12) 伊藤寿啓, 福地 修, 佐伯秀久, 忍田陽香, 中川秀己. アダリムマブ自己注射に対する意識調査ならびに現状について. 第26回日本乾癬学会学術大会. 大阪, 9月.
- 13) Honda M. Erythema multiforme following herpes zoster. 15th Herpes Immunobiology Conference. Venetia, Sep.
- 14) 本田まりこ. 若年者の皮膚感染症の up to date 若年者の性感染症. 第26回日本乾癬学会学術大会. 大阪, 9月.
- 15) 本田まりこ. 最近の帯状疱疹治療. 第27回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会. 大阪, 6月.
- 16) Matsuo K, Onoe T, Ito H, Nakagawa H. Segmental motor paralysis following herpes zoster. 22nd World Congress of Dermatology. Seoul, May.
- 17) Ishiji T, Matsumoto K, Kawase M, and Nakagawa H. Merkel cell carcinoma developed in a patient with epidermodysplasia verruciformis. EUROGIN 2011. Lisbon, May.
- 18) 佐伯秀久. (ランチョンセミナー) 乾癬に対する生物学的製剤による治療の実際. 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会. 宜野湾, 10月.
- 19) 佐伯秀久. (ランチョンセミナー) 乾癬治療における生物学的製剤のポテンシャル. 第62回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 四日市, 11月.
- 20) 大森康高, 伊藤寿啓, 佐伯秀久, 中川秀己. インフリキシマブ投与後に生じた薬疹の1例. 第26回日本乾癬学会学術大会. 大阪, 9月.

IV. 著 書

- 1) 本田まりこ. 各論 I .臓器にみた病態, 診断, 治療 Q.性感染症 2性器ヘルペス, 尖圭コンジローマ. 日本感染症学会編. 感染症専門医テキスト: 第I部解説編. 東京: 南江堂, 2011. p.714-20.
- 2) 石地尚興. III .これからの外用療法のために 14.外用薬の可能性-イミキモド-. 上出良一編. 匠に学ぶ皮膚外用療法: 古きを生かす, 最新を使う. 東京: 全日本病院出版社, 2012. p.212-4.
- 3) 松尾光馬. 第3章: 女性に多くみられる皮膚疾患 25. 女性の HIV 感染症の特徴は? 26. 女性の梅毒の特徴, 妊婦に与える梅毒の影響は? 宮地良樹 (京都大学) 編. 女性の皮膚トラブル FAQ. 東京: 診断と治療社, 2012. p.345-60.
- 4) 石地尚興. 1. プライマリケアのための鑑別診断のポイント 疣状外観を呈する皮膚腫瘍. 塩原哲夫 (杏林大学), 宮地良樹 (京都大学), 渡辺晋一 (帝京大学), 佐藤伸一 (東京大学). 今日の皮膚疾患治療指針. 第4版. 東京: 医学書院, 2012. p.123-5.